



出来るだけ家族が学校や仕事に行っている時間だけ縫うようにしています。間に合わない時は、家族が寝静まっている早朝に仕事をします。だから、息子も夫も仕事に関しては特に何も言わないですね。

もともと、私の夫も別の若連ですけど、お囃子をやってるので、私が山車の衣装づくりで忙しくなっても文句は言われませんね。

私に言ってしまうと自分も行けなくなるので(笑)。
 うちは一家で無類のおまつり好きなんですよ(笑)。

と思いました。そんなこんなで、いつしか衣装を作ることになって(笑)。こちらには、若連の方から「こういうふうにしてくれ」というような指示は特になくて、自分で全部提案しないとならないんです。毎年、各若連の風流(山車の演目)が決まると、少しずつ衣装の材料を探し始めて、若連の代表とかに「今年は人形何体くらいになりますか?」とか、「こういう場面なので、だいたいこの金額の見積です」という具合に打ち合わせています。GW過ぎくらいから縫い始めて、その年によって演目とか人形の数などが変わるので、歌舞伎の名場面だとか、定番っていう構図をインターネットや本で調べたりと、準備は一年中してますね。

樋渡初美さん(昭和46年、新庄市山屋生まれ。)

祖母が着物を縫う姿に興味を持ち、専門学校で和裁を学ぶ。若い頃は山屋囃子若連所属でお囃子をやっていたのが縁で新庄まつりの山車の衣装制作を担当することに。好きなことを仕事にするために、40代半ばで会社を辞め、手業の道を歩き始めた遅咲きの和裁職人。

Q 将来の夢や目標は?

いずれは山形県内のお寺の仕事をこなせるようになります。お寺の仕事は特殊で難しい仕事なので、それをこなせるようにもって腕を磨いていきたいですね。変な話ですが、お針子は一着いくらでお給料をもらうので、ペタンのお針子さんだと仕上げるのが早いのでどんどんこなせば、下手したら会社勤めの給料より稼げるかもしれません。私はまだまだなんですけど、これから腕を磨いていけば、どんどん仕事を受けられるようになっていくって、そういう可能性があるSDP、もっともって頑張りたいです。

Q 最上地域の好きなとこ、変ってほつてLINEを。

やっぱり、新庄まつりがあるところが一番ですね。2600年続いている伝統ですもの。囃子でも関わってほしい、今は衣装でも関わっているの、まさに「新庄市民の誇り」ですね。これを残していきたいと思います。今は山車づくりの山大生とか結構若い人が入ってますね。その若連によって雰囲気は違っているんですけど、すごく良いことだなあと感じます。

Q 逆に、変わってほしいと思うこと、若い人たちのいる場所が少ない・無いってことですね。居場所ってこの場合は「働く場所、勉強する場所、集まる場所」という意味で、これからの人たちがもっともって希望を持って、自分のやりたいことができる、そんな地域になってほしいですね。

Q 最上地域の女性へメッセージ

自分がやりたいことのアプローチは常に広げておく、ってことかな。そうしていつでもチャンスを探るようになっておく、ってことですね。私の場合、人と人の繋がりを大切に生きて、「いつか…」って夢を諦めないでいたら、今までの「新庄まつり」を通して知り合った人たちとの繋がりが、今の仕事に踏み出すタイミングを運んでくれてました。その、LINE、そういう出会いがあるかわからない。だから、歳とか関係なく、いつでもできる準備をしておく、ってことですね。